

第 264 回 日暮里駅前の大田道灌像と紅血像

筆者：林 久治（記載：2024 年 2 月 6 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張るって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\)のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

昨年の夏は地球温暖化の影響で、史上最高の猛暑で、とても銅像探索に行けなかった。一方、今年の冬は暖冬で、晴天時は銅像探索が可能である。私は毎週末に、健康増進を兼ねて銅像探索に行っている。しかし、空振りも少なくない。私は1月5日に三鷹市法専寺の釋稱念像と府中市多磨寺の菅野運徹像を探索し、[261回の記事/f](#) にその探索記を記載した。1月13日には、東京国立博物館に行き、[1\)のサイト/](#) に収録されていない狩野芳崖像（1933年、藤田文蔵作）を見に行っていたが、展示されていなかった。当日は、本館の ([1\)のサイト/](#) に収録されている) ジェンナー像と町田久成像とを探索し、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

1月19日に、私は [1\)のサイト/](#) に収録されていない坂本龍之輔像を、台東区立駒形中学校で探索した。その際、銅像周辺からは本像の制作者や制作時期が不明であった。そこで、私は1月27日に台東区中央図書館に行って、これらの情報の調査を依頼した。その結果、資料室の菊池さんが大正時代の新聞復刻版から、本像の除幕式の記事があることを発見された。

ネット記事では、坂本龍之輔像の紹介記事は少々ある。しかし、本像の制作者や除幕式を報道した記事は皆無で、**今回の発見は「日本の銅像研究史上」極めて重要である。** 本発見の内容を書き加えて、坂本像の探索記を [262回の記事/f](#) に記載した。

私は1月27日に台東区中央図書館に行くついでに、日暮里駅で降りて、東口ロータリーにある大田道灌像と紅血像を探索した。両像は [1\)のサイト/](#) に収録されているが、制作者や制作時期などの基本情報が記載されていないので、それらを探索した次第である。本稿はその探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）日暮里駅東口ロータリー

次ページの図1上に、日暮里駅東口ロータリーの地図を示す。図1下が示すように、そこには2基の銅像が設置されていた。



図1. 上：日暮里駅東口ロータリーの地図、下：東口ロータリーに設置された2基の銅像。

(3) 日暮里駅の大田道灌像

次ページの図2上に、日暮里駅の騎馬像を示す。図2下には、本像横の石碑を示す。石碑の表側には、次のように書かれていた。

回天一枝

平成元年十二月吉日 東京都知事 鈴木俊一書

石碑の裏側には、「大田道灌騎馬像寄贈者名」と題して、「東京荒川ライオンズクラブ」の会員名が多数刻まれていた。



図2. 上：日暮里駅の大田道灌騎馬像、下：本像横の石碑。

本像台座正面には、1枚のプレートが貼られていた。その写真を、次ページの図3に示す。それには、次のように書かれていた。

「回天一枝」橋本活道

道灌の「山吹の一枝」の故事にちなんで、それを契機に文の道に目覚めたという道灌が、まさに「回天」の勢いで文の道を極めていったことを表現しようと「回天一枝」という作品名を、作者の橋本氏と鈴木俊一元都知事がこの太田道灌騎馬像に命名いたしました。

一山吹の里の伝説一

若き日の太田道灌が狩りの道中で雨に遭い、一軒のあばら家に立ち寄り、蓑（みの）を借りようとした。しかし、少女は無言で山吹の一枝を差し出し、道灌は怒って雨の中を帰りました。

その後家臣から、少女は「七重八重 花は咲けども山吹の 実のひとつだに なきぞ悲しき」という古歌によせて、蓑ひとつない貧しさを山吹に託したのでしょうかと聞き、己の無学さを恥じ、歌道にも励むようになったと言われていました。

1989年 荒川ライオンズクラブ 25周年記念 寄贈

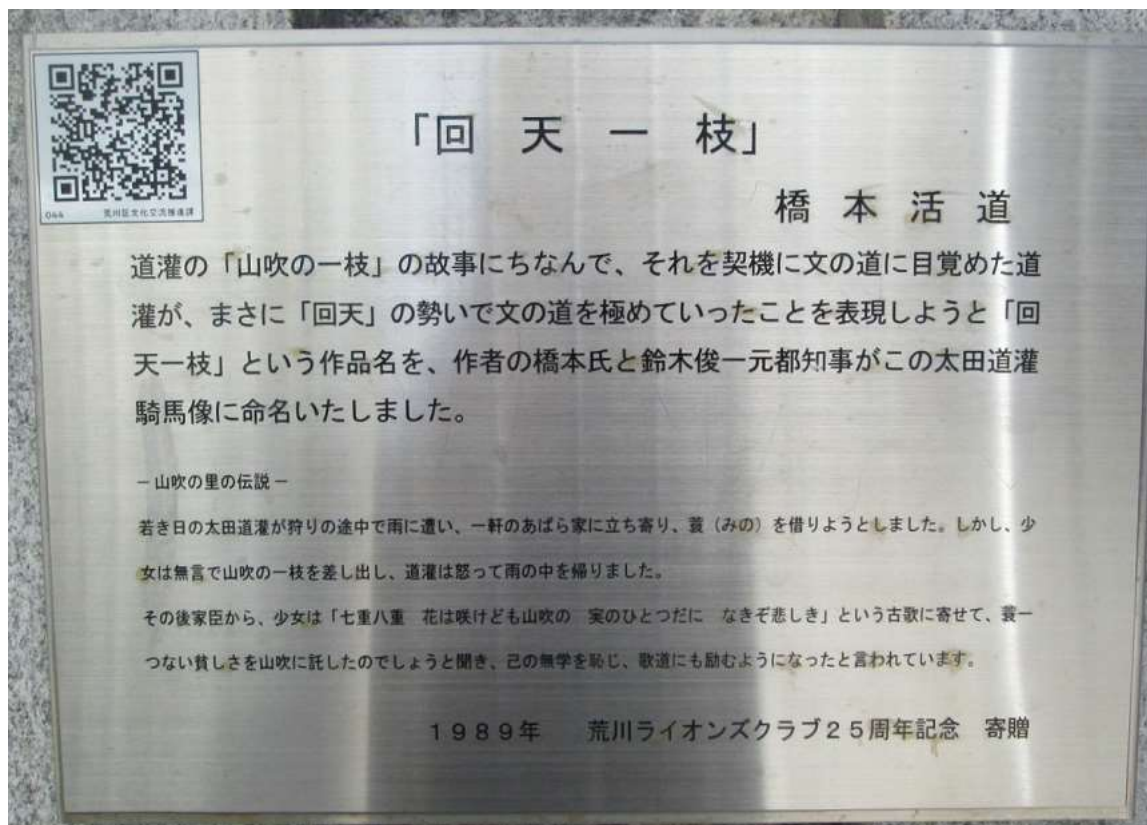


図3. 本像台座正面に貼られたプレート

本像の建立や制作者の情報を以下に記載する。

[3\) のサイト/1](#) : 平成元年12月にライオンズクラブ国際協会より東京荒川ライオンズクラブ創立25周年を記念して区へ寄贈。

[4\) のサイト](#) : 彫刻家・北村西望の弟子で僧侶でもあった橋本活道による作品。1989年12月設置。

[5\) のサイト/1](#) : この像は僧侶であり彫刻家であった橋本活道氏の作品です。平成元年12月にライオンズクラブ国際協会より東京荒川ライオンズクラブ創立25周年を記念して区へ寄贈され、道灌にゆかりの深い地である日暮里に設置されました。像の傍にある「回天一枝(かいてんいっし)」の碑は、道灌の「山吹の一枝」の故事に思いをいたし、それを契機に文の道に目覚めた道灌が、まさに「回天」の勢いで文の道を究めていったことを表現しています。

以上の資料などにより、大田道灌像の概要は次の通りである

太田道灌騎馬像

設置場所：東京都荒川区西日暮里2-19 JR日暮里駅東口ロータリー

制作者：橋本活道（北村西望の弟子で僧侶）

設置時期：1989年12月

寄贈者：東京荒川ライオンズクラブ創立25周年を記念

設置経緯：本像台座正面に「回天一枝」と題するプレートがある。その内容は、p. 3-4 に記載した。

(4) 日暮里駅前の紅皿像

図4に、日暮里駅前の女性像を示す。



図4. 日暮里駅前の紅皿像

次ページの図5上と中に、本像台座に貼られたプレートの写真を示す。それらには、次のように書かれていた。

山吹の花一枝 大田道灌 山吹の里 荒川

制作 彫刻家 平野千里

寄贈 東京荒川区ライオンズクラブ 平成30年5月

女性像の座主名はどこにも書かれていなかったが、[6\) のサイト/1](#) などより、この女性の名前は「**紅皿**」とも呼ばれている。そこで、本稿でもこの名前を採用する。

(本文は、7ページに続く。)

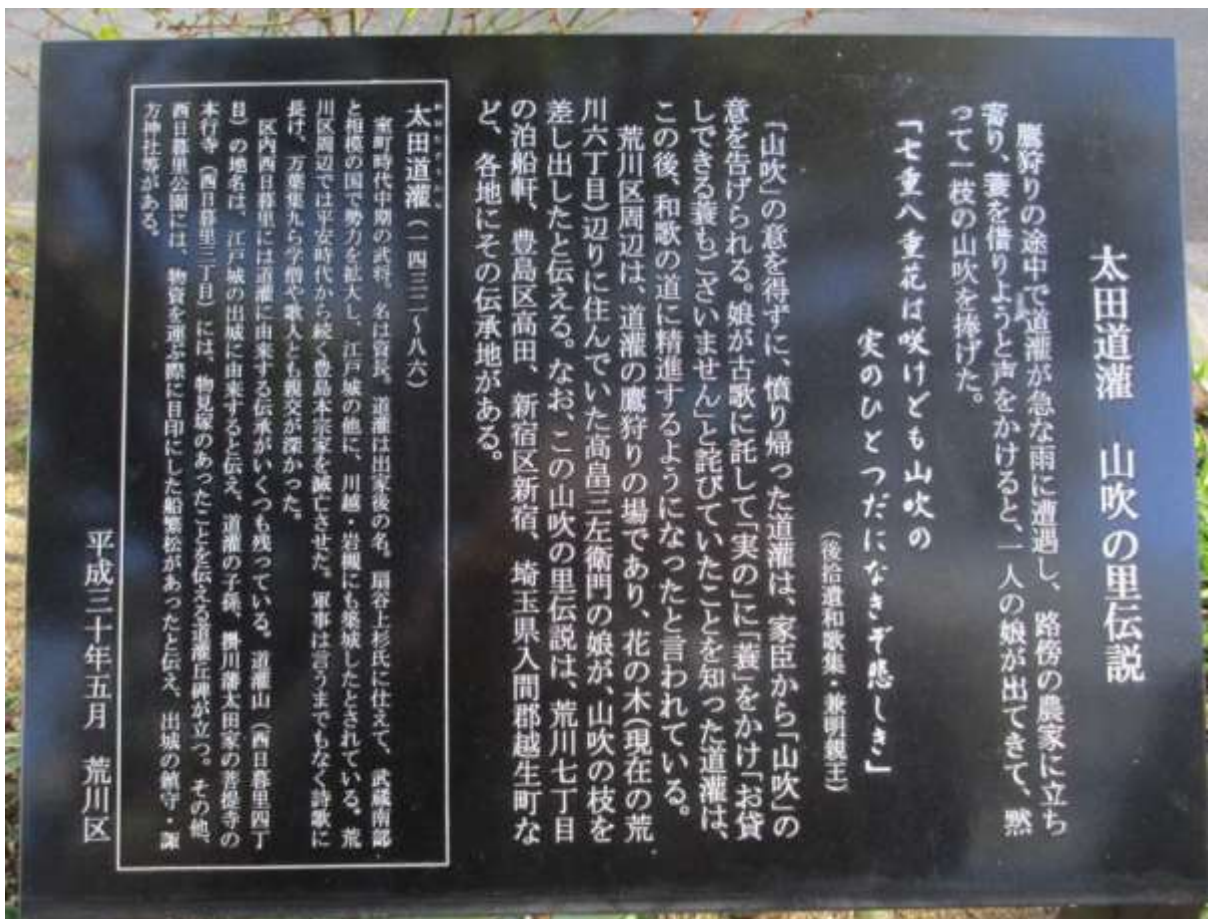


図5.
上、中：女性像台座に貼られたプレート。
下：本像横の案内板。

図5下には、本像横の案内板を示す。それには、次のように書かれていた。

太田道灌 山吹の里伝説

鷹狩りの途中で道灌が急な雨に遭遇し、路傍の農家に立ち寄り、蓑を借りようと声をかけると、一人の娘が出てきて、黙って一枝の山吹を捧げた。

「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」（後拾遺和歌集・兼明親王）

「山吹」の意を得ずに、憤り帰った道灌は、家臣から「山吹」の意を告げられる。娘が古歌に託して「実の」に「蓑」をかけ「お貸しできる蓑もございません」と詫びていたことを知った道灌は、この後、和歌の道に精進するようになったと言われている。

荒川区周辺は、道灌の鷹狩りの場であり、花の木（現在の荒川六丁目）辺りに住んでいた高島三左衛門の娘が、山吹の枝を差し出したと伝える。なお、この山吹の里伝説は、荒川七丁目の泊船軒、豊島区高田、新宿区新宿、埼玉県入間郡越生町など、各地にその伝承地がある。

平成三十年五月 荒川区

本像制作者の平野千里氏の情報を以下に記載する。

7) のサイト/1 : 平野千里さんは、日本の伝統工芸「木彫彩色」の第一人者として知られる平野富山さんの次男で、二年前亡くなった富山さんの跡を継いで、伝統の灯を守っています。西日暮里五丁目にある自宅工房を訪ねました。

8) のサイト/1 : JR日暮里駅前の紅皿像は平野千里氏の手によるもので、区内ではJR南千住駅前に立つ松尾芭蕉像も平野氏の作品です。平成30年5月23日除幕式。

9) のサイト/ : 平野千里氏の略歴が記載されている（1948年、東京に生まれる。1973年、ローマ・アカデミア美術学校彫刻科（ファッツィーニ教室入学）。等々）

以上の資料などにより、紅皿像の概要は次の通りである。

紅皿立像

設置場所：東京都荒川区西日暮里2-19 JR日暮里駅東口ロータリー

制作者：平野千里（1948-、荒川区在住）

除幕式：2019年5月23日

寄贈者：東京荒川ライオンズクラブ

設置経緯：本像横の案内板に記載されている。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<http://yuudx.blog117.fc2.com/blog-entry-1152.html>
- 4) のサイト：[橋本活道 / 回天一枝 太田道灌騎馬像 | @ART \(at-art.jp\)](http://www.art-art.jp/return/taidaoukanuma.html)
- 5) のサイト：
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a015/shisetsuannai/sonota/sonota043.html>
- 6) のサイト：<https://lunaticrosier.blog.fc2.com/blog-entry-1088.html>
- 7) のサイト：<https://www.acc-arakawa.jp/person/1991/08/No.32.html>

8) のサイト : <https://hotyuweb.blog.fc2.com/blog-entry-795.html>

9) のサイト : <https://www.butuzou-world.com/introduce/hirano/>